

2025(令和7)年度

施政方針

那覇市



< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 受け継がれた発展を未来につなぐ
- (3) 平和を希求する想いを世界へ
- (4) 備えることが安全の第一歩
- (5) 未来を育む、心温かな子育て支援
- (6) 洗練され、輝きを放つ地域経済を目指して
- (7) 住み続けたいまちづくり
- (8) 健やかで笑顔があふれる暮らしを
- (9) 学びや成長を支える環境が未来につながる
- (10) つながりが発展し、今、世界へ

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

共に育み、笑顔あふれる「なは」を目指して

(はじめに)

はいさい　ぐすーよー　ちゅーうがなびら。

私が市長に就任後、全力で市政運営に取り組み、瞬く間に2年が経過いたしました。この間、コロナ禍を経験した中での市民の価値観並びにライフスタイルの多様化をはじめ、生成AIの台頭によるデジタル化の進展など、私たちを取り巻く生活環境は目まぐるしいスピードで変貌を遂げております。

時代を見据えた市民ニーズに的確に対応していくためには、蛇が脱皮をするように、固定観念を破り、新たな成長に向けた大胆な舵取りが必要になってくると考えております。

県都那覇の揺るがない発展に向け、市民一人ひとりの声に耳を傾けていくとともに、官民連携の下、質の高い行政サービスを提供していくことが今後ますます重要になると確信しております。

確固たる思いを胸に、持続可能な未来を拓き、「笑顔広がる元気なまちNAHA」を実現させるため、市職員と共に全力で邁進していく決意でございます。

市民の皆様並びに、本市議会の皆様におかれましては、市政へのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、令和7年度の市政運営の基本姿勢と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅ　うにげーさびら。

（受け継がれた発展を未来につなぐ）

先の沖縄戦では、10・10空襲により、当時の那覇市の約9割が焼失し、尊い命の犠牲だけでなく、それまで培われてきた伝統文化や地域社会のほとんどが暗雲の闇に包み込まれ、絶望感は計り知れないものがあったと思います。

しかしながら、先人たちは雲外蒼天の精神で、逆境を乗り越え、国際通りの「奇跡の1マイル」など、復興を着実に成し遂げてまいりました。

振り返りますと、私が幼い頃、母と訪れた公設市場は、様々な沖縄の食材がずらりと並び、常に人のぬくもりに満ち溢れ、明日への活力を感じさせられる場所だったことを今でも鮮明に覚えています。

その後も、跡地利用の要となった那覇新都心の開発、モノレールの開通といった時代の潮流を的確に捉え、那覇市の発展にご尽力いただきましたこと、先人に対し、深甚なる感謝と崇敬の念に堪えません。

これまで私は、その築き上げられた土台を踏みしめ、確実に一步進める市政運営を念頭に各施策を展開してまいりました。

そして今、LRT整備をはじめ、泊漁港周辺地域の活性化などに向けた「県都那覇の振興に関する協議会」の再開や、民間が主導する「GW2050 PROJECTS 推進協議会」への参画などを通して、夢のある輝かしい未来に向け、飛躍の年となることを思い描いております。

先人の思いを胸に、発展し続ける那覇市であるために、足踏みすることなく、これからも果敢に挑戦してまいります。

（平和を希求する想いを世界へ）

今年は沖縄戦終戦から 80 年という節目の年です。

「なぐやけの碑」には、那覇市出身の戦没者名簿が長い歳月を経た今でも大切に奉納されており、戦争の惨禍を決して忘れることなく、愚かな戦争を再び繰り返してはならないという、恒久平和への強い決意がアジアや世界の人々に向け発信されております。

世界に目を向けると、現在も各地域で激しい争いが続いており、多くの方が犠牲となっている痛ましい現実があります。

そのような中、昨年 12 月、「日本原水爆被害者団体協議会」がノーベル平和賞を受賞いたしました。

それは長きにわたり、「再び被爆者をつくるな」を合言葉に、核兵器廃絶を訴え続けたことが世界に認められたものであります。私も、苛烈な地上戦を経験した沖縄に生きる者として、争いのない平和な世界を訴えてまいります。

私たちは、先人の語り継いできた戦争の悲惨な記憶を決して風化させてはいけないという揺るぎない信念を受け継ぎ、本年開催を予定している、本市と長崎市、広島市の三市長によるトークセッションなど、あらゆる機会を

捉え、世界に向けて想いを発信してまいります。

（備えることが安全の第一歩）

昨年4月の台湾地震の影響による津波警報では、市民の皆様への情報伝達や外国人への避難指示の難しさ、避難時の交通渋滞など、災害に際しての課題を再認識させられました。8月には南海トラフ地震臨時情報の発表もあり、自然災害の危険性を身近に感じる出来事が近年続き、災害への備えが今まで以上に求められております。

本市においては、これまで避難所の整備や災害備蓄品の確保といった基本的な対策に加え、地域住民への防災講話や市民参加型の防災訓練などを通して、市民の防災意識向上に取り組んでいるところです。

中でも、企業との協働による「とつぜんはじまる避難訓練」は、スマホで気軽に参加でき、避難時の必要な情報が得られたことから、民間のコンテストでも上位入賞を果たすなど、好評を博しました。

市民の皆様には、自らの居住地域における危険箇所、避難経路、避難場所の確認や、もしもの時に備え個別に災害備蓄を行うことに取り組んでいただきたいと考えており、本市も市民の皆様と連携しながら、その取組を全力でサポートしてまいります。

災害は突然襲い掛かってくるからこそ、平時からの備えが重要です。いざという時の冷静で、適切な行動につながるよう、一人ひとりの備えの積み重ねが、被害を軽

減し、大切な人を守る力となります。

市民の皆様と一丸となり、防災・減災に向けて、安全安心なまちを構築してまいります。

（未来を育む、心温かな子育て支援）

昨年は、若い世代の皆さんと接する機会が多い年でした。アウトオブキッザニアでは職業体験にチャレンジする子どもたちの目の輝きに、那覇市若者ミライ議会では議論する大学生の真剣なまなざしに触れ、本市の明るい未来を肌で感じることができました。

子どもはかけがえのない宝であり、すべての子どもを守り育むことは私たちの責務であると考えております。しかしながら、現実には、貧困や虐待などにより苦しんでいる子どもや、子育てに悩み孤立している世帯が存在しており、危惧されるところです。

私たちは、子どもが幸せに育ち、学び、生活していくための権利を守っていく必要があることから、その基礎となる「（仮称）子どもの権利条例」の制定に向けて取り組んでまいります。

また、子どもの成長していく過程における支援についても、長い時間軸で、妊娠期から切れ目なく取り組むことが重要であるため、「こども家庭センターなは」を通して、きめ細やかな支援を届けてまいります。

健やかに成長した子どもが、やがて社会を支える一員となり、より良い環境に発展させていく、子育てへの支

援はその土壌となりうるものです。様々な樹木から色とりどりの花が咲き、実となるように、すべての子どもが、自分らしくのびのびと育ち、希望ある未来を描ける社会を目指してまいります。

（洗練され、輝きを放つ地域経済を目指して）

琉球王国時代から受け継がれてきた地場産業の泡盛が、日本の「伝統的酒造り」としてユネスコの無形文化遺産に登録されたことに、心から嬉しく思うと同時に、これを契機に本市産業の振興発展に期待が膨らみます。

那覇に息づく伝統的な文化や芸能、歴史的遺産、そして国際通りをはじめとするまちの賑わいは、国内外からの観光客を魅了し続けております。特にアジア地域からの旺盛な需要は、確実に取り込まなければなりません。

「また訪れたい、もっと長く滞在したい」と思ってもらえるような、観光コンテンツの造成に注力するとともに、昨年策定した「都市型MICE振興戦略」に掲げる地域資源の利用促進などの施策を、官民連携により着実に推進してまいります。

昨今、経済社会は長引く人手不足や物価高騰の影響が懸念されつつも、確実な景気回復が感じられます。働く市民が豊かさを享受するために、企業におけるDX促進による労働生産性の向上や地域特産品の消費促進、中心市街地の賑わい創出等、これらを着実な地域経済の活性化につなげるため、積極的な経済施策を推進してまいり

ます。

空と海の玄関口に位置する本市の立地特性を最大限に活かし、南国の香りと深い風味を持つ泡盛のように多くの人をひきつけ、独自の輝きを放つ地域経済を目指し邁進してまいります。

（住み続けたいまちづくり）

牧志駅の袂を流れる安里川に架かる蔡温橋の周辺は、かつては那覇の港町として交易と文化が交わる場所でした。その橋の名の由来となった琉球王朝三司官の蔡温は、当時、那覇と首里を結ぶ港や河川などを整備し、商船を呼び込むことで交易を広げ、人々の暮らしの向上に力を尽くしたと伝えられております。

蔡温が手掛けた事業は、現代の都市整備にも通じるものであり、本市においても、物流・人流の拠点としてその地理的優位性を活かしつつ、地域資源を大切に育みながら、市民生活の向上を目指し、まちづくりを進めております。さらに、官民連携による漫湖公園や新都心公園、新真和志複合施設の整備事業や、市内を横断するLRTの整備に向けた事業も着々と動き出しており、地域に賑わいと交流を生み出す新たな都市の可能性の創出に向け、しっかりと取り組んでまいります。

そして、まちづくりにおいては、環境の視点も欠かせません。誰もが移動しやすい交通網の整備による公共交通中心のライフスタイルへの転換や、再生可能エネルギー

一の活用などを進め、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現を推進してまいります。

今後も人口減少・少子高齢化が懸念される中、先を見据えた持続可能なまちづくりと、都市の機能を高め、人が集まる付加価値を創り出すことが求められます。「誰もが訪れたい、住み続けたいまち」を目標に、都市機能と自然環境が調和した那覇の未来に向け、決断と実行を続けてまいります。

（健やかで笑顔があふれる暮らしを）

昨年も、爽やかな青空のもと、NAHAマラソンが開催されました。万国津梁の鐘の響きとともに走り出すランナーへ声援を送りつつ、手の込んだ仮装姿の方を見つけるたびに、思わず笑みがこぼれます。楽しみながら健康につながっている様子は、まさにウェルビーイングを実践していると感心させられます。

しかし一方では、日々の忙しさから健康に意識が向けられず、早い時期に医療や介護へつながる方も多いことから、生涯健康で過ごせるよう、若い世代からの健康意識の向上に取り組む必要があります。食事や生活習慣についての講習、健診・保健指導などの健康づくりの取組を通して、市民の皆様の健やかな生活を後押ししてまいります。

市民が長く健康でいるためには、安心した暮らしを支

える仕組み作りも肝要となります。経済的、家庭的な問題や精神的な要素など、一人ひとりの様々な課題に寄り添うことができる包括的な支援体制の確立もしっかりと進めてまいります。

また、新那覇市立病院の開院による医療サービスの向上や、消防への高機能消防指令システムの導入など、医療や医療を支える分野についても機能強化を図り、市民の健康と命を守るための環境を整えてまいります。

アメリカの哲学者ラルフ・ワルド・エマーソンは、「健康は第一の富である」との言葉を残しております。それは、心身の健康維持が、充実した生活につながるため、何事にも優先して健康づくりに励むことの大切さを示唆しています。本市においても、市民一人ひとりの健康づくりや課題解決に向けた施策を展開し、市民の皆様の暮らしを支える活力につなげてまいります。

（学びや成長を支える環境が未来につながる）

うちな^{わらべ}ーぐちで「^{なら}童、習しむん」というように、子どもの将来は親や周囲の大人の関わりかたによって決まるという、教育環境を整えることの大切さが黄金言葉として伝えられております。

子ども達の教育の質を高め、学びの向上につなげていくためには、教職員の職場環境を整えることがますます重要になってまいります。

本市ではこれまで、教育現場の環境改善に向け、教職

員の心のケアを始め、業務負担軽減に向けてのDX推進などを図ってまいりました。引き続きタスクフォースを中心に対策の強化に取り組んでまいります。

次に、不登校等の課題を抱えた子ども達の生活環境改善に向けては、子ども達一人ひとりの実情に応じたきめ細やかな支援を通して、子どもが社会とつながり、健やかに成長していけるようサポート体制を強化してまいります。

また、私は公約において、沖縄県と連携した学校給食費の無償化を掲げてまいりました。中学校の給食費については、沖縄県に加え本市が半額補助することで完全無償化を実現いたします。さらに、小学校の給食費についても、公約に誠実に向き合い、小中を問わず等しく経済的な負担軽減を図るため、沖縄県に先行し、本市の責任として半額補助を実施することを決断いたしました。

小学校も含めた完全無償化の実現に向けては、引き続き県に対し要請を行い、すべての子どもとその家族に分け隔てのない支援が行き渡るよう、取り組んでまいります。

子ども達が希望を胸に未来へはばたける社会を目指し、教育環境の整備に全力を尽くしてまいります。

（つながりが発展し、今、世界へ）

本市では、1998年に策定された第3次那覇市総合計画より「協働」を掲げ、約30年にわたり「協働による

まちづくり」を進めてまいりました。それは、旧本庁舎に設置された「NPO活動支援センター」での活動から始まり、「なは市民協働プラザ」の開所や小学校区におけるまちづくり協議会の設置、なは市民協働大学による人材育成など、市民とともに育むまちづくりを目指し、協働の裾野を広げてまいりました。

そして昨年、誰もが多様性を尊重し、寛容な心を持つ社会の実現に向けて、国際的な視点に立ち、市民を含め企業など全ての主体とのパートナーシップを築いていくための第一歩として、国際連合大学と連携協定を締結いたしました。この協定が、それぞれが持つ独自の強みを引き合わせることで、地域課題解決の糸口となり、ひいては、SDGsの理念である、「誰一人取り残さない持続可能な開発目標」の達成につなげていきたいと考えております。

市民の皆様と長年にわたって紡いできた協働の「わ」が、世代を超え地域に根付いていくとともに、この「わ」が途切れることなく広がり続けるよう、「協働」の歩みを着実に進めてまいります。

予算編成と主要事業の説明

（予算編成の説明）

それでは、令和7年度予算案の概要を申し上げます。

一般会計予算は、1千853億9千700万円で、対前年度比106億800万円、6.1%の増で、過去最大

の額となっております。

歳入予算では、市税収入は、個人・法人市民税や固定資産税、市たばこ税などの増収、国・県支出金については、児童手当国庫負担金や子どものための教育・保育給付費負担金などによる増額を見込んでおります。

歳出予算では、物価や人件費の上昇、扶助費など社会保障費の増加へ対応しつつ、災害への備えを高めるための予算や子ども政策をはじめ、市立病院建替事業、新真和志複合施設などの建設事業、学校教育関連事業など、各分野へ幅広く予算を計上しております。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約 756 億 3 千 100 万円で、対前年度比約 2 億 9 千 7 百万円、0.4% の増となっており、主に介護保険事業特別会計によるものとなります。国民健康保険事業特別会計の財政赤字に対しては、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

結果として、約 60 億 800 万円余りの収支不足が生じておりますが、財政調整基金及び減債基金を取り崩して対応いたします。

（主要事業の説明）

次に令和7年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿って、ご説明いたします。それではまず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業

についてご説明いたします。

（小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり）

協働によるまちづくりの推進に向けて、地域が自ら課題を解決できる環境づくりを推進し、市内全ての小学校区にまちづくり協議会の設立を目指します。

また、SDGsの達成に向けて、まちづくりの新しい手法ソーシャルインパクトボンド（SIB）を取り入れた「那覇市版SIB」の仕組みを用いて、社会課題の解決、持続可能な社会の実現を目指す、協働活動を創出します。

さらに、地域活動の拠点となる、自治公民館等のコミュニティ供用施設の建替え等に対して補助を行い、地域の活性化を図ってまいります。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

安全安心なまちづくりに向けて、災害時において重要な情報伝達手段となる防災行政無線の更新及び高機能化を図るほか、各種災害へ迅速・確実に対応できる体制を維持するため、「高機能消防指令システム」及び「消防救急デジタル無線」の一体運用に向けた更新事業に着手します。

消防署所の適正配置を目的として、「（仮称）識名出張所」の建設工事を推進し、消防力の強化を図ります。

予測困難な災害に備え、様々な手法で防災訓練を実施し、災害対応力の高いまちづくりを推進します。

また、保安灯の設置及び維持、防犯カメラの設置を行う団体に対し補助を行うとともに、交通安全運動を推進し、安全で快適な生活環境を促進します。

さらに、相談体制の充実したまちづくりに向け、消費者被害の拡大防止のための啓発活動や消費教育、相談業務等を通して、安全安心な消費生活の確保に取り組みます。

生活にお困りの方に対して、生活保護に至る前の第2のセーフティネットとして、生活や就労などの自立に向けた相談支援等を伴走型で実施します。

在住外国人が安心して暮らせるように、住民登録をはじめ、健康保険、税金などの適切な窓口へ案内できるよう多言語対応により支援します。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

戦後 80 年の節目にあたり、記念事業の取組として、本市が加盟し、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を発信することを目的として設立された「日本非核宣言自治体協議会」の総会を本市で開催するほか、恒久平和のモニュメント「なぐやけ」の周辺整備を行います。

沖縄戦体験者の高齢化が進むなか、戦禍の記憶を風化させないため、証言映像を制作し平和学習などに活用することで、沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代へ継承してまいります。

平和の象徴として復活を遂げた「那覇大綱挽まつり」

の期間に合わせて、本市の友好・姉妹都市を招いた交流会を開催し、人的・文化的交流等を通じて相互理解と友好をより一層深め、平和の構築を図ります。

（人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり）

市立中学校の思春期の子どもたちを対象に、子どもへの暴力防止に向け、問題解決能力を高める^{キャップ}CAPプログラムを理念としたワークショップを行い、暴力やいじめの未然防止に取り組みます。

性別や世代、地域を越え、お互いに協働し、一人ひとりが豊かに暮らせる社会を目指して、「第4次那覇市男女共同参画計画」の方策を進めていくとともに、「那覇市性の多様性を尊重する条例」の制定に向けて、取り組んでまいります。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（地域で暮らし 地域で支えるまちづくり）

高齢者等支援を必要とする方が孤立しないよう、自治会等が訪問活動を行う「地域見守り隊」の結成促進及び充実を図り、住み慣れた地域で誰もが安心して生活できる地域づくりを推進します。

災害時において避難行動要支援者の避難を迅速に行えるよう、関係団体と協力して個別避難計画書の整備や、避難を促す体制整備を図ってまいります。

慢性疾患等があり、生死に関わる危険性が高い独居高齢者等が利用する「緊急通報システム事業」の機能強化を図るため、見守りセンサーなど、ＩＴ技術を活用した見守りの仕組みを導入します。

障がい者等の重度化や高齢化又は「親亡き^{あと}後」に備え、障がいのある方が地域で安心した暮らしを続けることができるよう、緊急時の受け入れ先の確保や居住体験の場の提供を行います。

子どもの貧困への対策として、貧困状態又は将来的に貧困に陥る可能性がある児童の自立に向け、庁内に貧困対策支援員を配置するとともに、地域の子ども食堂や学習支援などを実施する団体への運営支援を通して、子どもの居場所づくりを支援します。

（すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり）

新たに策定する「健康なは 21（第3次）」を通して、市民一人ひとりが健康づくりに取り組み、健康長寿を実現できるよう、行政や関係機関・団体など社会全体で健康維持・増進を図ってまいります。

本市の重要な健康課題である肥満の改善に向け、肥満による生活習慣病のリスクのある方を対象に、ＩＣＴを活用した生活習慣病予防プログラムを実施します。

乳幼児健診の受診票デジタル化によるアプリ活用を通して、保護者の負担軽減を図るとともに、子育てがより楽しく便利になることを目指します。

子どもを望む夫婦の経済的負担軽減を図るため、保険適用外の先進医療不妊治療に対する費用の一部を助成します。

また、若年妊産婦が家庭や社会から孤立することなく、安全安心な居場所で妊娠・出産・育児ができるよう支援するとともに、復学・就学、就労など自立を目指し、安定した生活を営むための支援を行います。

（身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり）

本年度は、いよいよ新那覇市立病院の開院を迎えます。10月の開院に向け、医療機器等の整備を重点的に支援するほか、現病院の解体や跡地整備に向け、引き続き市立病院を支援してまいります。

また、那覇市救急搬送支援システムの運用を開始し、救急要請に対して更なる市民サービスの向上を図ります。

ちょうふく
重複服薬・多剤服薬は、症状の悪化や二次障害を起こす要因となっていることから、国保加入者の方を対象に適正な服薬を指導するとともに、医療費の適正化を図ります。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（子育てが楽しくなるまちづくり）

低所得世帯の放課後児童クラブ利用にかかる費用の一

部を助成するほか、経済的な理由で学校外教育を受けることができない子ども達に対しては、学習塾等で利用できるクーポンを提供するなど、児童の健全育成及び放課後の学びの格差解消に向けて取り組みます。

保育士等の職場環境を改善し、ゆとりを持って保育ができるようにするための体制づくりや継続就労に対する支援を行うなど、保育の量の確保と質の向上を図ります。

就学前の子どもとその保護者を対象に、育児相談講習等を行う地域子育て支援拠点を設置することにより、子育ての負担緩和を図り、安心して子育てができる環境を整備します。

また、こども誰でも通園制度の本格実施を見据え、保育施設へ通っていない生後6ヶ月から2歳児までのお子さんを対象に、月10時間以内の保育サービスの利用を提供し、子育て支援の充実を図ります。

こども園において特別な支援が必要な園児が安全安心に教育を受けられる環境を整え、インクルーシブ教育の充実を図るとともに、教育・保育施設等へ入所希望の医療的ケア児の受入れを可能とするため、看護師の配置体制等を整備します。

支援が必要な母子世帯等へ、精神的・経済的な安定と自立した生活への支援を行うとともに、ひとり親家庭等に対し、様々な資金貸付を行うことにより、経済的自立を支援します。

支援を必要とする子どもや保護者に対して、関係機関

と連携して、対象児童の見守り体制やヤングケアラーへの支援体制を構築し、児童虐待の未然防止及び早期発見、早期対応に努めます。

（自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり）

こどもの権利を保護するため、「（仮称）こどもの権利条例」の制定に向けた取組を推進します。

小中学校において、特別な支援や医療的ケアが必要な児童・生徒を支援するための保健師及び特別支援教育補助員の配置の充実を図ります。

電子黒板などのＩＣＴ機器を整備し、それらを活用した学習により児童生徒の学習意欲を高め、学習の質の向上を図るほか、各小中学校へ統一した保護者等連絡ツールを整備することにより、校務ＤＸの推進及び保護者等の連絡に係る利便性の向上を図ります。

また、保護者や地域等から学校や教員への要求や苦情に対応する学校問題解決支援員を配置することにより、教職員の負担軽減を図り、本来業務に専念できる環境を整えます。

さらに、本市の小学校並びに中学校の学校給食費においては、本市の責任として半額補助を実施するとともに、小学校も含めた完全無償化の実現に向けて、引き続き、県へ要請を行い、取り組んでまいります。

学校施設の機能と安全性を確保するため、計画的な予防保全による施設の長寿命化を図るとともに、エレベーター

ターの新設など、障がいのある子もない子も、地域の学校で安心して共に学べる教育環境を確保します。

（生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり）

施設の長寿命化を図るため、首里公民館・図書館改修工事に着手するほか、利用者が快適に利用できるよう、繁多川及び若狭公民館・図書館の冷房機器更新のための実施設計を行います。

児童生徒が、スポーツ活動で市・県を代表して九州大会以上の県外大会へ派遣される場合の航空運賃・宿泊費の一部を補助することにより、広い視野を持つ人材の育成及び競技力の向上を図ります。

また、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」等を配置し、地域人材や資源を活用して子ども達の学びや成長につながる活動を推進してまいります。

（郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり）

文化が保存され継承されるまちづくりの推進に向け、旧国宝の崇元寺跡地については、適切な保存・活用を図るとともに、「崇元寺跡」の認知向上を図るため、ガイダンス施設の工事に着手します。

首里城公園内の中城御殿跡地については、国宝尚家資料の常設展示・収蔵に向けた実施設計を行うなど、引き続き関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

また、国指定名勝の伊江殿内庭園の活用・公開に向けては、庭園部分を中心に保存・整備を進めます。

なは一とを拠点として、本市にゆかりのある芸術家と創造活動に取り組み、市民が多彩な文化芸術に触れる機会やあらゆる世代の交流を促進し、市民の創造性を育むことで、寛容で、互いの多様性を認め合う心豊かな市民生活及び活力ある地域社会の実現を目指します。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり）

先月には、国内外から約 3,000 名が参加した学会が、なは一とをメイン会場として開催され、多くの参加者が本市を訪れました。このような規模での開催は初めてであり、M I C E 受入れの事例として大いに可能性を感じました。今後も、充実した都市機能が集積する本市の強みを活かした都市型M I C E を積極的に誘致し、関係機関と連携強化を図りながら、稼ぐ力を高める取組を推進します。

本市の重要な伝統行事であり、賑わいを創出する那覇三大祭りについて、那覇の魅力をさらに発信できるよう引き続き支援してまいります。

読売巨人軍春季キャンプの機能強化及び拡充による更なる観光誘客の促進を図るとともに、市民・県民がスポ

ーツ等に親しむことのできる環境を確保するため、多目的屋内運動場と多目的広場の整備に取り組みます。

Ｕ－１８野球ワールドカップの開催に向けて関係機関と協力し、国内外より誘客を図るとともに、市内の子ども達が世界に目を向けるきっかけとなる大会となるように取り組んでまいります。

（様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり）

地域経済を支える多様な職業体験を通して将来の夢や意識醸成を目指し、本市の小学生を対象に昨年実施したアウトオブキッサニアを好事例として、引き続き、キャリア教育支援等に取り組みます。

人々の動きや流れが把握できる人流データは、市内企業のマーケティング戦略や効率的な販促活動、効果的な観光振興策などへの活用が期待できます。そのデータの収集及び分析、公開方法などを検討し、地域経済の活性化や市民サービス向上につながるデータの提供を目指します。

本市水産業の拠点である泊漁港周辺地域一帯が秘めるポテンシャルを最大限に引き出すことを目的とした「泊漁港将来像構想」の実現に向け、「（仮称）泊漁港等整備基本計画」の策定に取り組んでまいります。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

中心市街地を活かしたまちづくりの推進に向け、沖縄

の独特な食文化が体験できる第一牧志公設市場の魅力を発信することで、公設市場を含めたまちぐわーへの誘客を促進してまいります。

また、商業と観光の両面の振興に資する「（仮称）中心市街地商業等振興計画」の策定に取り組みます。

加えて、関係部局で構成するプロジェクトチームにおいて、まちぐわーにおける様々な課題解決を図り、良好な地域環境の確保に取り組みます。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

ゼロカーボンシティの実現に向け、公共施設等の省エネ対策として、各施設の照明のLED化を推進することとし、保健所、老人福祉センター及び公民館・図書館などにおいて器具の取替更新等を行い、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。

最終処分場である那覇エコアイランドは、令和 13 年度に埋立容量が満杯となる見通しであることから、隣接地を拡張し、施設整備に向けて取り組んでまいります。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり）

貴重な自然体系を守るため、自然観察会などを通して、環境に対する意識啓発の推進を図ります。

観光都市としてふさわしい道路空間確保のため、街路

樹の剪定や除草及び花木の植栽整備により、亜熱帯庭園都市の景観づくりを推進します。

誰もが利用しやすいインクルーシブ・ユニバーサルデザインの公園を目指すとともに、災害時には避難場所として機能する、安全安心な公園づくりを推進します。

また、公園の機能を高め市民が快適で楽しく過ごせるよう、漫湖公園及び新都心公園において、パークＰＦＩの取組を進めてまいります。

（暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり）

中心市街地、真和志地域、新都心地域の３つの拠点を結ぶ基幹的公共交通としてのＬＲＴ導入に向けて、引き続き関係機関との合意形成に必要な調査等を行い、継続して協議を進めてまいります。

新たな「密集住宅市街地再生方針」のもと、「那覇市密集住宅市街地モデル地区整備計画」の策定に向けてモデル地区の抽出に取り組みます。

「那覇市空家等対策計画」については、本市の空家等の現状や課題、これまでの取組などを整理し、より効果的な空家等に関する施策を総合的に推進するため、計画の見直しに必要な実態調査を行います。

また、管理不全な空家などの所有者に対し、必要な助言・指導を行うとともに、除却費用の一部補助を行い、住環境の保全を促進します。

盛土等に伴う災害から人命を守るため、規制区域の指定に係る基礎調査の結果を公表するとともに、既存盛土については現地調査等を行い、安全性の把握に向けて取り組みます。

崖崩れに対する防災を目的とした民間の対策工事等に対して、必要となる費用の一部を補助します。

住宅確保要配慮者の専用住宅として登録した民間賃貸住宅等に対して、バリアフリー化にかかる改修費用や高齢者の見守り機器の設置費用の一部を補助し、要配慮者の入居の円滑化を図ります。

居住機能の再生推進に向けて、引き続き、石嶺・大名・宇栄原・真地の各市営住宅建替事業を推進します。

衛生的な生活環境が確保されたまちづくりの推進に向け、「なはねこサポーター制度」のさらなる拡充を図り、野良猫の糞尿被害等対策の支援や不妊去勢手術を実施することにより、人と動物との共生社会の実現を目指します。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

安全安心のまちづくりに向け、民間保険会社のドライブレコーダー映像データを基に、ＡＩが道路表面の損傷を自動分析・抽出するシステムを活用するほか、パトロールで発見した道路の損傷状況や位置情報を、効率的に維持管理受託業者とデータ共有できるＤＸ化を図るなど、早期対応による道路の維持管理に取り組みます。

また、災害に強い都市基盤の整備に向け、石嶺線や真和志線などの都市計画道路、並びに久茂地9号や泊中央線などの各市道において、歩行空間の確保やバリアフリー化等の整備を推進し、安全で快適な道路空間の確保を図ってまいります。

さらに、老朽化した橋梁について、予防保全型の修繕を計画的に実施します。

水道施設については、基幹管路の耐震化等を推進し、下水道施設については、汚水未普及地区の解消や重要幹線等の耐震化を進めるほか、引き続き雨水管理総合計画の策定に取り組みます。

（那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり）

地域の特性を活かし、魅力が高まるまちづくりを目指し、生活サービス機能や居住の誘導と公共交通ネットワークの形成を連携させて取り組む「那覇市立地適正化計画」の改定に向け、これまでの施策の実施状況等の分析及び評価を行います。

また、那覇軍港の跡地利用については、その特性を活かした本市の発展、ひいては沖縄県の発展に資する計画づくりを目指して、地主会との合意形成や関係機関との連携を深め、取り組んでまいります。

昨年から、県内経済界が中心となり将来の沖縄の価値を創造し、国際競争力のある新産業創出など、日本を牽引する沖縄経済の実現を目指す「GW2050 PROJECT

ＣＴＳ推進協議会」が始動しており、同協議会の一員である本市も、引き続き連携して取組を進めてまいります。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

（市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり）

（効率的で効果的な行財政運営を行う）

市民の多様な要望や要求に的確に対応し、市民サービスのより一層の向上が図れるよう、各種研修等の充実を行い、課題を解決する力と意欲を持った職員を育成します。

また、行政サービスの電子化により市民の利便性を高める組織づくりを推進します。

本市の公式ホームページについて、スマートフォンでの利用やオンライン申請システムとのスムーズな連携を重視し、市民にとって利便性や検索性の向上を目指したホームページの再構築を行います。

市民税や県民税などの税や、後期高齢者医療保険料、市営住宅家賃等の口座振替登録について、WEB上で契約手続きが完結できるサービスを導入します。

公立こども園において、一時預かり及び延長保育の使用料納付のキャッシュレス化を実施します。

引き続き、全庁的なDXの取組を着実に進めるとともに、その取組を継続させるため庁内のデジタル人材育成を推進します。

支所や公民館・図書館等複数の施設を集約した新真和志複合施設の建設を推進し、複合施設及び敷地の一部で整備される民間施設で賑わいと交流の創出を目指して、令和10年度の供用開始に向けて取り組んでまいります。

（結びに）

市政運営にかける私の思い、令和7年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後にもう一言、私の思いを添えさせていただきます。

（共に育み、笑顔あふれる「なは」を目指して）

私は学生時代、暑い時も寒い時もひたすら白球を追いつけ、手にした一番の財産は、苦楽を共にした仲間との絆でした。今でも、会えば昔話に花が咲くとともに、私が得た大切なものを思い返させてくれます。

昨年、市議会において、ロサンゼルス・ドジャースをメジャーリーグワールドシリーズ優勝へと導いた、デーブ・ロバーツ監督をお迎えし、「那覇市特別栄誉賞」を授与いたしました。

ロバーツ監督は、多様な選手一人ひとりを大切にし、各選手の最大限の力を引き出す能力に優れていると評されておりますが、お話しさせていただく中で特に印象に残ったのは、「沖縄の人々は、家族が全てであり、尊敬があり、愛があり、それが私自身であり、私の仕事の全てであり、私は沖縄の人々と共にあります」というフレーズ

でございました。その言葉に、監督自身がうちなんちゅの持つ寛容性を備え、それが世界にも通用する力になるものだということに、改めて感銘を受けました。

今後、急速な社会情勢の変化や人々の価値観が多様化していく中であっても、なはに暮らし、働き、集う全ての人が、お互いを尊び、絆を深め、笑顔に包まれながら市民生活が送れるよう、心をひとつに力を合わせる「和衷わちゅう共済きょうさい」を胸に全力を投じてまいります。

市民の皆様並びに議員各位におかれましては、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げ、令和7年度施政方針の結びとさせていただきます。

いっぺーにふえーでーびる。

令和7年2月10日

那覇市長

知念 寛



発行 2025年2月
那覇市企画財務部企画調整課



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

那覇市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

